



松浦のおくんち



10月から11月にかけて、無病息災や地域の発展・繁栄を願い、各地でくんち行事（各神社の秋の例大祭）が行われました。
※取材できたもののみを掲載しています。

志佐くんち（10月26日）

900年以上の歴史を持つ志佐くんちの「流鎧馬」は、当たった矢の本数などで来年の豊凶を占い、馬が巻き起こす風に当たると無病息災、外れた矢を拾うと良縁に恵まれると言われる神事です。

烏帽子えぼしと狩衣姿かりぎぬの射手が馬上から3カ所の的を目掛けて18本の矢を放つと、見事に17本が命中。見物客からは大きな拍手と歓声が起こりました。



今福くんち（10月15日）

今福港お祭り広場での奉納演舞で披露された今福常若隊による“和一処”。「わーいっしょ」の掛け声とともに、力強くみこしが宙に舞うと見物客から大きな歓声が上がりました。

また、今福中学校の生徒による和一処の演舞や今福保育所園児によるマーチング、今福小学校児童のよさこいも披露され、にぎやかに地域の発展と無病息災を祈願しました。



星鹿くんち（11月5日）

無病息災と豊作、豊漁を願う星鹿地域の伝統行事。みこしを担いだ大人たちが、太鼓や笛の音に合わせ町中を練り歩きました。

お旅所のある星鹿港で、みこしが漁船に積み込まれると、大漁旗で飾り立てられた漁船35隻による勇壮な漁船パレードが始まり、港の付近はたくさん見物客でにぎわいました。



御厨くんち（10月17日）

御厨小学校での演舞を皮切りに町内9カ所で披露された御厨蛇踊り保存会による蛇踊り。大人が操る大蛇と小学生が操る2体の子蛇が登場し、ラッパや銅鑼、鉦どらや太鼓かねなどで奏でる独特のリズムに合わせて、秋空高く躍動感に満ちた豪快な舞いをみせました。演舞終了後には観客から大きな拍手と一緒に「もってこーい」の掛け声が起こりました。



受章おめでとうございます



田中 幸一さん
(今福・飛島、75)

昭和36年に松浦市消防団に入団。以後、47年の永きにわたり消防団員として活躍されました。入団以来一貫して現場第一の理念に基づき活動され、火災・風水害の際には一身も顧みず現場出動の先頭に立ち、犠牲的奉仕の精神をもって消防活動にあたられました。平成14年に分団長に昇進後も、常に率先して消防の任にあたられ、確固たる信念で積極的に職務を遂行される姿は地域住民に感謝と敬愛の念を持たれました。

秋の叙勲 瑞宝単光章



松浦 寛雄さん
(福島・原、71)

昭和38年郵便局採用後、昭和56年に特定郵便局長に任ぜられるとともに福島土谷郵便局長、平成3年には福島郵便局長に就き、平成15年の退職までの40年余りを郵政事業に奉職し、多大な貢献をされました。郵便局の最高責任者として統率力と指導力を発揮し、部下職員の指導育成に力を注ぐとともに、郵政事業の使命を機会あることに説き、業務の円滑な運営を図り、地域の人が安心して利用できる郵便局の体制づくりに取り組まれました。

秋の叙勲 瑞宝双光章

「145周年灯台記念日」灯火監視協力者（団体）表彰

11月1日の「灯台記念日」に、灯火監視協力者（団体）に対し唐津海上保安部長表彰の感謝状伝達式が行われ、松浦市からは下記の3人・1団体が受賞しました。

●灯台記念日とは

明治維新を機に、日本における西洋技術を用いた灯台の建設が始まりました。その最初の灯台が、明治元年（1868年）11月1日に起工された神奈川県横須賀市の観音崎灯台です。

灯台業務の開始を記念して、毎年11月1日を「灯台記念日」と定め、今年で145周年となります。



▲ 前列左端から中田さん、大川内さん、濱本さん
後列右端が西日本魚市株式会社 副島常務取締役

・中田 茂さん（今福・恵比須町）

今福港西防波堤灯台の灯火監視協力者として、10年以上にわたり航行援助業務に協力。

・大川内 和彦さん（福島・土谷）

金井崎灯台ほか1基の灯火監視協力者として、10年以上にわたり航行援助業務に協力。

・濱本 正敏さん（福島・鍋串）

伊万里港福島灯標の灯火監視協力者として、10年以上にわたり航行援助業務に協力。

・西日本魚市株式会社（調川町）

調川港北防波堤灯台ほか1基の灯火監視協力団体として、10年以上にわたり航行援助業務に協力。